

**平和教育基準カリキュラム小学校編（試案）**

小学校低学年（1，2年生）

1．目標 文学作品・映像作品などから原爆・戦争（紛争）の恐ろしさを感性的にとらえ，全ての人間，全ての生命をいつくしみ，平和を愛する豊かな心情を育てる。

2．教材・資料例

1年生

教科・領域	出典	時期	教材・資料	学習内容	主題
国語	東京書籍	1月	「じゃんけん」 いろいろなじゃんけんについて話しあおう 読書	いろいろな国のじゃんけんについて調べたり自分で考えたりして、紹介しあう。	3
生活		4月	学校たんけん	学校内にある（施設・樹木・原爆・戦争を伝えるもの）ものを見つける・	4
		9月	たのしかったなつやすみ	休み中に体験したことを伝え合う。	2
音楽		4月	校歌	歌詞に込められている願いを知る。	1
		6月	アオギリのうた		1
図工		10月	お話の絵	お話を聞いて心に残ったことを絵に表す。	1，3

2年

教科・領域	出典	時期	教材・資料	学習内容	主題
国語	東京書籍	1月	「せかいのかくれんぼ」 いろいろなあそびについて話しあおう 読書	いろいろな国のあそびについて調べたり自分で考えたりして、紹介しあう。	3
生活		年間	木のかんさつ	校庭にある木を観察する。	4
音楽		6月	広島平和の歌		1
図工		10月	お話の絵	お話しを聞いて、心に残ったこ	1，3

				とを絵に表す。	
学活		9月	夏休みのできごと	夏休み中の経験を紹介しあう。	2

### 共通教材

行事・活動	教科等	時期	資料等	学習内容	主題
映画鑑賞会		6月	マヤの一生 クロがいた夏 トビウオのぼうやは病 気です 伸ちゃんのさんりんし ゃ おこりじぞう等	戦争や原爆の悲惨さを感じ とる。	1 2 3
平和展		7月		被爆の実相を知る。	4
おりづる集会	児童会行 事	7月		平和への願いをこめてつる を折る。 平和の誓いを発表する。	4 5
平和のつどい	学校行事	8月		被爆体験を聞く。黙祷する。	4
食育		年間	給食	外国（姉妹都市縁組をして いるところなど）の給食メ ニューがでたときにその国 との関係について知る。	3

### 3. 実践例

#### 実践例 1

## 伸ちゃんに三輪車をプレゼントしよう（1年）

映画「伸ちゃんのさんりんしゃ」を見て

ねらい ・被爆死した伸ちゃんの思いや願いに寄り添うことを通して命の大切や平和の尊  
さを感じ取る。

- 1、 映画「伸ちゃんのさんりんしゃ」を見る  
映画鑑賞会

心に残った場面を絵と文でかく。 みんなに伝えよう

全校放送で紹介 公民館へ展示

- 2、 天国の伸ちゃんに三輪車をプレゼントしよう

・粘土で三輪車をつくる。

太く丈夫な車輪を3つ作る。

軸を作り、3つの車輪をつなぐ。

ハンドル、サドルをつける。

他につけたいものをつける。ライト、ベルなど思いをふくらませてつ  
けたす。

・楽しそうに三輪車に乗っている伸ちゃんも作ろう。

・友だちも一緒につくろう。

・他にも周りに置いておきたいものを作ろう。

（お花も。お墓も・・・。）

\* 作りながら、映画の場面を思い出したり、伸ちゃんの気持ちによりそったつづ  
やきを自由に言いながら作製するようにする。

3. プレゼント用に箱に入れよう。

・一人一人が作った粘土の三輪車をビニル袋に入れる。

・大きな箱に全員の三輪車を入れる。

4. 伸ちゃんに手紙を書こう。

・伸ちゃんの命日である8月6日の全校登校日に手紙を書く。

・この日、原爆で死んでいった伸ちゃんの様子を想像する。

・その時の伸ちゃんの様子を想像する。

5. 伸ちゃんにとどけよう。

8月6日の灯ろう流し（粘土の三輪車の写真と手紙を灯ろうに貼る）で伸ちゃ  
んに作った三輪車をとどけよう。（担任 後日、様子を写真で報告する）

6. 終わりに

映画を鑑賞するだけで終わるのではなく、子ども達の反応を見ながら1年間の  
平和学習の展開の中に位置づけた取り組みとなるようにした。子ども達の発想を  
大切にしながら8.6登校日の意義を確かめたり灯ろう流しに託す市民の思いを  
共感したりすることができた。

実践例 2

「みんな大きくなったよね」(2年)

家族からの自分に対する思いを聞く中で、友だちも自分と同じように大切に育てられてきた事を知り、命を大切に育てようとする気持ちを育てるための単元である。道徳と生活科により単元を構成した。

「命の誕生」道徳(3-2 生命の尊重)一人ひとりに命があることに気づきその命を大切にしようとする心情を育てる。

指導展開(1/3)

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料
<p>1. 自分たちが生まれたのに何人くらいの人に関係しているか知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10世代前までの親たち。(1024人がいる。)</li> <li>・20世代前までの親たち。(100万人をこえる。)</li> <li>・生命誕生時には父母がいる。</li> </ul> <p>2. 紙芝居を見て生命誕生から出産までを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受精から着床まで。</li> <li>・細胞分裂での成長について</li> <li>・へその緒の働きについて</li> <li>・子宮の中の様子について</li> </ul> <p>3. 赤ちゃんを出産する場面を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心音を聞く。</li> <li>・出産をする。</li> <li>・へその緒の処理をする</li> <li>・胎盤の処理をする。</li> <li>・赤ちゃんを抱く。</li> <li>・自分が赤ちゃんになったつもりで、お話を聞く。</li> </ul>	<p>たくさんの人の関わりの中で自分たちが生まれてきていることを知らせる。</p> <p>アフリカでは50万人以上の子どもの父母がいないが、命になったときには父母が必ずいることをしらせる。</p> <p>配慮を要する家庭について、特に注意しながら指導を行う。</p> <p>生命誕生から出産までを子ども達に質問しながら考えさせる。</p> <p>卵巣・卵子・卵管・子宮・精子・受精卵などの言葉は出るが、紙芝居を見せながら簡単に説明するだけにする。</p> <p>人間の赤ちゃんの成長を紙芝居を見させながら説明し、動物の赤ちゃんとも比較する。</p> <p>酸素や栄養はへその緒を通じることを知らせる。</p> <p>出産は赤ちゃんが知らせることを知る。</p> <p>赤ちゃんの人形を服の下に入れ準備しておく。</p> <p>助産師・医師・家族の役割を知らせ、出産に立ち会わせる。</p> <p>心音を聞くことを知らせる。</p> <p>へその緒、胎盤、子宮の付き方を理解させ、それぞれを見せる。</p> <p>はさみの工夫したところと手入れ使い方を理解させる。</p> <p>胎盤の処理を理解させる。</p> <p>出産だけでなく、死産や出産後死ぬこともあることをおさえる。</p> <p>自分たちは一人じゃないから生まれてきて、たくさんの命を食べることで生きていることをおさえる。</p> <p>夢を探して夢を叶えるために生きていることをおさえる。</p>	<p>「かみしばい」</p> <p>心音を聞く聴診器</p> <p>赤ちゃんの人形</p> <p>へその緒、胎盤、子宮</p> <p>はさみ</p>

指導展開（2 / 3）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料
<p>1. 資料「あかちゃん」を読んで話し合う。 あかちゃんはどんな夢をみているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お母さんにだっこをしてもらっている夢。</li> <li>・おっぱいをいっぱい飲んで、おなかいっぱい夢。</li> <li>・友達と遊んでいる夢。</li> </ul> <p>家族や周りの人たちは、赤ちゃんに何と話しかけているだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なかないでもいいよ。</li> <li>・優しい子に育ててね。</li> </ul>	<p>どんな夢を見ているか創造させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりが色々な夢を想像していることに気づかせる。</li> </ul> <p>赤ちゃんの誕生への喜びや願いなどを通して、一つの命が生まれ、しっかりといきようとしていることや、みんなが命を大切に思っていることに気づかせたい。</p> <p>赤ちゃんが生まれるまでに、家族は生まれてくる命を祝福したことを知る。</p>	<p>「生きる力」2年 道徳副読本（大阪 書籍）</p> <p>「あやちゃんの うまれたひ」 福音館書店</p>

指導展開（3 / 3）

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料
<p>1. 自分が生まれた時、家の人々がどう思ってくれたか発表する。 赤ちゃんのころ、家の人々はどんなことを思っただろう。</p>	<p>保護者と連携し、出産したときの子どもに対する気持ちを、事前に心のノート57ページを書いてもらう。それを子どもに発表させる。</p> <p>おなかの中に赤ちゃんができたとき、出産の時・母親の思い、家族の思いを整理して板書する。</p> <p>自分の命もみんなから祝福され、守られてきたことに気づかせる。</p> <p>友だちも自分と同じように、祝福されて生まれたことに気づかせる。</p> <p>配慮を要する家庭について、特に注意しながら指導を行う。</p>	<p>「みんなみんな 生きているよ」 （心のノート）</p>

自分のアルバムを作ろう（生活科）

自分がどのように生まれてきて、今までどんなできごとがあったか、アルバムを作ろう。

- ・アルバムの表紙（自分の顔をかきタイトルを付ける）
- ・生まれたときの様子、1才2才3才4才5才6才1年生2年生ごろの様子、保護者に書いてもらったり、自分で書いたりする。（1・2年生の様子は自分で書いたが、残りは保護者に書いていただいた。）
- ・今の自分（好きなもの、好きな勉強など）
- ・友だちから一言メッセージ（人数分のわくを用意し書いてもらった）
- ・自分の手形
- ・お家の人への手紙

### 実践例 3

#### 「つたえたいねヤナギのことアオギリのこと」(2年)

ねらい ・ 校内にある平和を伝えるものを子ども達から子ども達へと伝えていく営みをとおして、被爆体験継承の主体者として自覚を高める。

#### 1. 「みんなおいでよ」 生活科

新しく入学してきた1年生に、2年生が学校のように教えてあげる单元である。校舎内や校庭には原爆や平和に関係するものがいくつかあるが、これらを子ども達から子ども達へ語り継ぐ主体的で実践的な平和学習を設定した。

導入 「新しい1年生がきた」

- ・ 入学のお祝いにアサガオの種をプレゼントしよう
- ・ 学校を案内してあげよう

\* ぜひ伝えておきたいものを話し合う。

被爆ヤナギ、被爆アオギリ二世、平和コーナー、  
被爆死された平川コハル先生のこと

計画を立てよう

- ・ お世話する1年生とのペアを決めよう
- ・ 説明するところを分担しよう

調べよう

- ・ よく分からないところを調べよう

準備をしよう

- ・ 1年生の教室にお知らせに行こう
- ・ 案内するところの「表示」を作ろう
- ・ 説明する練習をしよう

おうちの人に聞いてもらおう(参観日)

- ・ おうちの人に学校を案内しよう

1年生を案内しよう

- ・ 3ペア1グループでまわる。
- ・ 一人2か所を受け持って説明する。
- ・ 被爆ヤナギか被爆アオギリ二世のどちらかは必ず説明する。

#### 2. 「町たんけん」 生活科

学区内をたんけんしながら第一国民学校(被爆建物、被爆者の救護所ともなる、現段原中学校)、宇品線跡と旧「南段原駅」立て札、段原の大ヤナギ(被爆樹木)を見てまわり、自分達の地域にも原爆や平和を伝えるものがたくさん残っていることに気づく。

町を見てまわろう もう一度詳しく調べよう 分かったことをみんなに伝えよう

おうちの人にも伝えよう(参観日) 第一国民学校慰霊祭に折鶴を捧げよう。

#### 3. 「キッズ平和ガイドになろう」 校内平和展

6月に開催される校内平和展を見る。地域内にある戦争・原爆遺構や校内にある平和

を伝えるものの展示を見る。問題に答えられたら平和ガイド認定証をもらう。

#### 4. 「平和の木に名札をつけよう」 生活科・図工科

1年間の振り返りをし、1年生に学校案内をしたときの表示がいたんでいることに気づく。表示を新しく、丈夫なものにしておこう。

学習の流れ

- ・ 一年間を振り返る。
- ・ 1年生に学校案内をしたね。
- ・ この小学校にとって大切な木を紹介したね。
- ・ 案内の紙がいたんでいるね。どうしようかな。
- ・ 新しくしよう、もっと丈夫にしよう。

平和を伝える木は他にもあったね。(平和展を思い出す)

平和のバラ 被爆者の治療につくした外科医原田東岷さんからの寄贈

被爆エバヤマザクラ 江波山で被爆したエバヤマ桜の二世、  
アメリカハナミズキ アメリカ市民から広島市民に贈られた種から育てられたもの

札に書く説明の言葉を考えよう。

材料等 アクリル版

文字について 木の名前 緑 説明文 黒

作成日時 3月中旬

完成後 記念写真。春の学校探検で使ってもらう

作成にあたってー たてかた。ニス等

説明のことばを考えよう。

- ・ 被爆ヤナギ この木は、げんばくにあいながらも たくましく生きつづけわたしたちを みまもっています。
- ・ 被爆アオギリ二世 平和こうえんには、げんしばくだんに(1945年8月6日)あいながらも たくましく生きつづけているアオギリがあります。いのちの大切さをつたえるため その子どもの木がここにやってきました。
- ・ 被爆エバヤマザクラ二世 えば山でげんばくにあったエバヤマザクラのこどもの木です。
- ・ ハナミズキ 友じょうのしるしに アメリカの人びとから おくられました。
- ・ 平和のバラ 世界の平和をねがって作られました。

#### 5、おわりに

次年度はこの表示を活用して、新2年生が、新1年生に学校案内をするとりくみを展開した。子ども達同士で被爆体験の継承をするささやかな営みが始まったといえる。平和学習を教室の中だけにとどめず、また異学年の友だちともつながりを持ちながら展開していくことは、子ども達にとって、受身の学習ではなくより主体的な学習へと変容させるものとなった。学習したことが生かされ子ども達も達成感を味わうことができた。

## 実践例 4

# ほんとうのことを つたえたい ( 2 年 )

## 地域の教材 常金丸満州開拓団

日本永住中国残留孤児に対して、政府からお金が出るというニュースが大きく報道された。喜ばれていた。しかし、これで本当に幸せになれるのだろうか。今までの苦しみや怒りは薄まるのだろうか。まだまだ戦争は終わっていないと思う。「原爆はしかたがなかった」という発言を聞き戦争への意識がますます消えかかっているように思う。

### 1. 地域の探検で「追憶の碑」を見つける

### 2. 聞き取り

常金丸(広島県福山市)は静かな山間の小さな町です。戦争の頃、国策として211人の村民が『満州』に渡り、100人が亡くなっていた。「私は自分の生きてきたことを伝えたいんです。」と真剣なまなざしで強く訴えられたAさん。「私が、どうして『満州』に行ったのか、どうやって日本に帰ってきたのか、今伝えないと、誰も伝える者がいなくなる。」「『満州』から帰った者が集まり、亡くなった人たちの慰霊碑を作ろうということになった。碑文を考えるために何回も集まった。『満州』での生活、命をかけた帰国、たくさんの村の人たちが遠いふるさと常金丸を思いながら、亡くなった。特に、小さい子の死は本当につらかった。自分も14歳の時だった。むりやり『満州』に行かされた。つらかった。開拓団の受けた犠牲は大きかった。しかし入っていった土地や家は、それまでは中国の人たちが住んでいて、畑を耕していたところだった。そこを奪い取るようにした。中国の人たちはどんな気持ちだったろうか。命からがら懐かしい常金丸に帰っても、何の補償もない。国の政策のために、開拓団としてむりやり行かされたのに。たくさんの思いを抱えて50年を生きてきた。」

常金丸小学校の北にある天神社で追憶の碑を読んだ。加害の歴史とともに子どもたちに伝えたいと思った。校庭には「日露戦争凱旋記念碑」がある。記録だけではなく、体験された人たちの思いを聞いていきたい。日本が戦争に向かっていった頃の社会状況や、政策を知るため福山市史を読んだ。常金丸は土地の状況から開拓団に行った人が多かった。耕地の面積は田畑を含めても少なく、農家一戸あたりの土地が狭かった。企業の整備統合もあり、働く場所を求めていた人が多かったらしい。「国の政策、県の政策、町の政策、それを受けての学校の先生の言葉だった。」「もうこんな体験は誰にもさせたくない。先生たちに聞いていただいて本当にうれしい。」と、涙を流して話してくださった。

学校の沿革史を見た。出征を村の多くの人で盛大に祝った。戦争に勝ったと言うことで子どもたちも旗行列をした。皇族の祝いに子どもたちが参加した。戦争の頃いろんな行事に教育活動として子どもたちが参加させられた。

### 3. 聞き取りをしよう

「戦争の頃、常金丸小学校は」の絵を見て、子どもたちはいろいろ質問をし、感想を言った。絵の中で今自分たちがどこにいるか見つけた。みんなは何か信じられないような不思議な顔をして見ていた。

学年便りにして出したら、11人のおじいちゃんやおばあちゃんの手紙が来た。うれしかった。中学校はAさんの証言を聞いている。



#### 4. 教材化 (聞き取りをまとめる。さらに詳しく思いを聞く。文や絵に表す。教材化をする。)

子どもたちは絵本「お星様のレール」をみた。そのあと実はこの常金丸にも同じようなことがあったと言うと、子どもたちはハッとしたように顔を見た。常金丸開拓団がどのようにして『満州』にいくようになったか、『満州』での生活、引き揚げの時の話をし、その石碑があることを知らせた。「先生、戦争は子どもや女性が被害を受けるんですよ。特にこの団はたくさん小さい子が死んでいるんですよ。胸が張り裂けそうですよ。国策でした。戦争をこれから起こさないために先生、しっかり子どもたちにこのことを伝えてください。」教材化していく中で、自分の身近な人が開拓団に行ったことや亡くなったことを知って、本当に戦争はひどいという気持ちをもった子がいた。

#### 5. 成果と課題に代えて

平和教育への攻撃、歌・旗のくやしきなどさまざまな思いで、何年かを過ごしてきた。でも少しずつ読み聞かせなどを通して、平和について考えてきた。

児童朝会での校長先生の話聞いて

広島へ行った。人が死んでかわいそう。つるがいっぱいあった。

保育所の時福山へ行った。爆弾がいっぱい落ちた。原爆ドームがあった。

6年生の人が戦争の勉強をしてきた。良く聞いていた。広島に行って崩れ落ちていたのを見た。けんかはだめ。友だちを大切にと言った。

絵本の読み聞かせ

「えんぴつびな」

いやだ。かなしい。火が燃えて死んでしまった。「ばか」ほんとうはすき。

なみだがでた。おれも死んだらどうしよう。「なんで死んだのか」せんそうがおきた。にげなかったから。爆弾にきがつかなかったから。最初は日本が爆弾をおとした。アメリカ人が日本人を殺した。

「さようならカバくん」「おこりじぞう」「くまのこうちょうせんせい」

映画「ガラスのうさぎ」

子どもたちの感想を聞いたが、一番心に残っていたのは映画の中で流れていた音楽だった。すぐ子どもたちは歌い出した。心に響く歌です。

平和集会 紙芝居「おこりじぞう」「全校で鶴を折る」の感想

ひろちゃんがしんだ。・お母さんを捜していた。・ひこうきがきたとき、サイレンがならなかったよ・わらいじぞう。爆弾が落ちてひとをころした。・ひどい・ばくだんのほのおでとけた。・おこりじぞうのかお。おじいさんがいしをひろっておいた。・おじいさんがくみたててくれた

ていねいに読んだが、難しそうだった。歴史的な背景などが十分分からない。日本人が中国の人にひどいことをした、死んだ人はかわいそうだったという感想が多かった。紙芝居は退職された教師の方が、地域の施設などでしてくださっていた。

## 資料 『満州』常金丸開拓団の紙芝居

### 『満州』 開 拓 団 （教材文）

むかし日本がせんそうをしていたころ。常金丸小学校のうんどうじょうはいもばたけだったことをしていますか？たべるものがなくて、うんどうじょうにさつまいもをたくさんうえていたのです。大阪からさぎす国民学校（小学校）の子どもたちも常金丸国民学校にきていたのです。お寺にすんで、かよっていました。大阪にいるかぞくにあいたくてなっていた子もいたそうです。ことしの4月その人たちが、もうおじいちゃんおばあちゃんになっておられました。この常金丸小学校にやってこられました。

「ここに木があったな。」

「この川はもっとひろかったようなきがするんだがなあ」

「ここにこんなこうしゃがあったんや」などなつかしくはなされていました。

学校のものそばでひとりのおじいちゃんが、じっと立っていました。そして、こうつぶやきました。

「がくどうそかいで、この常金丸にきた子どもたちもさみしかったらうなあ。しかし、わしもほんとうにつらい目におうたんじゃ。」

そしてこんなはなしをしてくださいました。

わしは今69さい。今から55年前14さいのとき（今の中学2年）に、学校の先生から「『満州』に行かないか」とすすめられた。常金丸村は、田んぼや畑がすくなく人はおおい、だから『満州』にいったのうぎょうをしようということなんじゃ。むらぜんたいできめられた。むりやりだった。おかあさんはなきながらはんたいをした。でもとうとういくことになったんじゃ。おとうさんはへいたいについているから、いえにはおかあさんとおとうと2人がのこった。

『満州』はとてもさむいところじゃった。すいどうがこおっていた。松花江という川はこおっていた。はるになってすいかやメロンやなすびやきゅうりやいねのたねまきからはじめた。とてもよくできた。すごくおいししゅうて、ええにおいがあたりーめんにただよっていた。だいこんもネギもなまでたべていた。はたけもひろくて、うまでたがやすのにはたけのはしまでいってかえれば、おひるになっていたそうじゃ。わしはいっしょうけんめいにはたらいた。『満州』にいていゝんなことがあった。あかちゃんもうまれた。たのしいこともあった。

でもなあ、1945年8月15日、日本がせんそうにまけたということがつたわってきて、がらっとかわった。しばらくたって、わしらのすんでいたいえのまわりに中国の人たちがあつまってきた。とてもおこっていた。はじめはじっとみていただけだったが、石をなげはじめた。わしら日本人にはらをたてていたんじゃ。わしはどうしてじゃろうとおもった。それは、もともと中国の人たちがしあわせにくらしていたいえやとちを、わしら日本人がかってにとりあげてきたからじゃ。

ソ連ぐんがやってきた。1946年6月、わしらはにげることにきめた。でもいのちがけだった。たべるものもないしふくはそのまま。さむいし、おなかはずくし小さい赤ちゃんがしんでいった。ほんとうにかわいそうじゃった。たくさんの人がびょうきになった。わしもびょうきになって、なん日もねむりこんでいたんじゃ。

やっとのことでわしは、この常金丸にかえることができた。ほんとうにつらかった。ぜんぶで211人いたのに、生きてかえったのは112人だけだった。

みんながどんぐりひろいにいったことのある天神社の、入り口に大きな石碑があるじゃろう。あれはとおい『満州』でなくなった人たちがいたということ、それは国ぜんたいできめて、いかされたということ、へいわがつづきますようにというねがいをこめてつくったんじゃ。

おじいちゃんはもっともっとはなしたいようでした。

2. 年間計画例

小学校 1 学年 平和教育年間計画試案

月	学校行事	特別活動	各教科・生活	道徳	読書他
4		「お誕生日おめでとう」(該当日に)	生「なにがあるかな」 校内めぐりで校庭の被爆樹や「平和宣言」に気づく。		
5	(平和意識実態調査)		生活科の飼育・栽培活動を通して「いのち」に気づく。 生「春の被爆樹」	道「生命尊重」 (いのちについて)	「アオギリのねがい」
6	校内平和展 映画鑑賞会 (児童作品を公民館展示) 今月の歌「折鶴」 6 年平和サミット参加	学「平和集会をしよう」 ・クラスの「平和のちかい」について話し合う。 ・折鶴を折る。 学「マヤの一生」(映画)	図工:感想画「マヤの一生」		「トビウオのぼうやはびょうきです」
7		児「平和集会」 平和のちかい 平和宣言 平和サミットの報告	生「夏の被爆樹」		「しんちゃんのおさんりんや」 児童の原爆体験記
8	「平和を考えるつどい」 (全校登校日) 2. 地域の方の被爆体験記 2. 「まちんと」 (ブラックライト紙芝居)	児「教師と子どもの碑慰霊祭」(児童会)	夏休み帳 平和絵日記 読書(平和に関するもの)		
9	人権学習懇談会		生「たのしかったね」(絵日記交流)	道(人権に関するもの)	

			図「ふれあい啓発ポ スター」		
10	読書月間		国「読書のまど」		
11			生「秋の被爆樹」	道「ないちん げえる」	
12					
1			国「じゃんけん」 (世界のジャンケ ン) 生「せかいのあそ び」		
2			生「冬の被爆樹」	道「生命尊重・ 家族愛」	
3			生「被爆樹の四 季」		

小学校 2 学年 平和教育年間計画試案

月	学校行事	特別活動	各教科・生活	道徳
4			生「みんなおいでよ」 校庭の被爆樹や平和コーナー・被爆死された先生を1年生に紹介	
5	遠足 (被服支廠前) 平和意識調査		生「町たんけん」 (第1国民学校・宇品線跡・被爆樹) 生「春の被爆樹」	道「生命尊重」 (いのちについて)
6	校内平和展 今月の歌	学「キッズ平和ガイドになろう」	国「アオギリのねがい」 音「あおぎりのうた」	「ヤナギは知っている」 (創作紙芝居)
7	今月の歌	児「おりづる集会」	図「平和のでっかい絵」 音「広島平和の歌・青い空は」 生「夏の被爆樹」	
8	全校平和集会 (全校登校日) 「たいせつな夏」自由参加	第一国民学校慰霊祭 児「教師と子どもの碑慰霊祭」	平和絵日記	
9		夏休みのできごと		
10	読書月間		国「読書のまど」	
11		児「比治山ビッグゲーム」(比治山のある遺跡や碑など)	生「秋の被爆樹」	道「自然愛護」
12	全校人権学習			
1		学「平和の木に札をつけよう」	国「せかいのかくれんぼ」 図「木ふだ作り」	
2			生「冬の被爆樹」	道「生命尊重・家族愛」
3				